

水の玄関口である「浜宿湊」の風景はどのようなものだったのでしょうか。筑波山に見守られ印旛沼から湊に入った船は千葉氏の代官の検査を受けます。湊で働く男達の手によつて降ろされた荷物は市に運ばれます。そこでは他国からの商人達が中国陶磁器、国産陶磁器、米、木材、布を積み上げ、古河の福田氏、結城の会田氏、海上の宮内氏や酒々井の篠田氏など下総の武装商人達と入り交じり、活気ある取引が行われていたこととでしょう。市では大取引のほか米、野菜、酒、肉、日用品を扱う出店が並び、珍客へのもてなしのための買い出しや近隣からの買い出しなどの大勢の人々で賑わい、とりわけ市姫神や八幡社の祭礼の時には、芸人も集まり市はいっそう賑わいだこととしょう。また、隣国との戦いが近づくと下総各地から集まった将兵が船に乗って港を出て行ったこともあったはずですが。

時が過ぎ、遠く伊勢の熊野まで通じていた水運は途絶え、印旛沼も消えてしまいました。戦国の湊町「浜宿湊」の面影はいずこにも見当たりません。目が凝らし、耳を澄ませて歩いてみると、今でも湊と市のさわめきに気付くかもしれせん。

「山形米沢方面一泊見学会」

に参加して

北見寿一

二十年以上も継承されてきた伝統と実績のある、郷土研の催しに初めて参加させていただき驚きと感動をお伝えできたらと思いい、旅の恥を承知で筆を取りました。

まず驚きの点ですが、創立以来、年会費が一家族千円であること、さらに、そのような予算の中での運営と、実りの多い企画に当たってこられた、会長はじめ幹部の方々のご苦勞に対し、感謝と敬意の念を禁じ得ません。

さて、人生に例えられる旅は好きですが、ツアーは馴染みません。加えて、山寺・上杉廟にしても数年前の朱印帳に記録があり年次休暇に見合う価値があるのかという疑問もありましたが、共通の興味と関心をもち仲間とのツアーの楽しさを実感しました。

上杉廟でのお話や願成寺のご住職の法話など、まさに郷土研ツアーでしか接することが難しい体験も、私の感動を深めてくれました。

逆に、山寺はあまりにも観光地化され、人の訪れの少ない冬の時期に、再び芭蕉を招き、俳句を作ってもらいたいものだと感じました。

最後に、お誘いいただいた方、お世話を願った方はもとより、願成寺の池に自分の不注意で落としたり朱印帳を拾いあげてくれた方、後部座席の酒肴により腰の痛みを和らげてくれた皆さんに、特段の仏のご加護の多いことを願って初参加のご挨拶とさせていただきます。

郷土研日誌

月日	内 容	人員	月日	内 容	人員
4/16	山菜を食べる会	55	5/28	運営委員会	22
23	野草観察会	12	6/2	見学会下見	5
5/1	史談会	19	4	名勝探訪	30
9	町内史跡巡り	38	5	史談会	21
11	研修部会	8	20	編集会議	6
13	一泊見学資料作り	3	21	御成街道探訪	39
18,19	一泊見学会	29	26	会報発送	20
28	編集会議	6			

郷土史講座案内

千葉県民謡調査から

『印旛沼周辺の民謡について』

千葉敬愛短期大学 樋口誠太郎
非常勤講師

民謡というと、各地に昔から伝わった古い歌で「としより」の唄う古い歌ときめてか、つている人も多い。しかし、最近各地の民俗や習俗がさかんに研究されるようになって、もつと別の面が民謡にあるのではないか、と考えられるようになり、あまり私見をまじえないで、そのままの姿をテレビ等に収録、保存する活動がおこってきた。

しかし、いざ調査してみると、こゝうした調査は二十年は遅かったと思ふ。歌い手も、その節を知る人も、なかなか存在しないのである。



中川台より印旛沼を望むの図
（「成田名所図会」より）

こうした経過を實際の調査を交え、印旛地方、酒々井町周辺の民謡について、おはなしすることにしたい。

「史跡巡り」

ドキドキ初参加

堀井一郎

「帽子を上向きにかぶるのを「アミダかぶり」と言うてしよ、語源は、この阿弥陀仏像の額の生え際から派生してゐるんですヨ。額の幅の広いのは奈良時代の仏像、それから下の方へ狭まってゐるのが……」。前会長の会田秀雄さんが、かみ砕くように説明する。さすが十二年間も郷土研の大役をこなされた方だ。五月九日、郷土研主催・町内史跡巡りの三番ポイント清光寺でのこと。筆者も急に常識の脳細胞が増えたみたい！

この一月、新会長に就任なさった青木朝次さんのハンドマイクからも、肩の凝らない解説が流れる。根古谷の庚申塔で：「庚申に当たる日はご夫婦の営みを行つてはダメ、大変なペナルティーがあるので」と突然のイエローカード。この日の総参加者三十八人の中で、ギクリとした表情になつたご仁もかなりあつたよう。

たしかに根古谷の庚申塔には、ふんどし姿のまま踏み付けられている邪鬼の石像があつた。結局、庚申の日は年間に六日と言う青木会長の補足説明で、一同ひと安心。

この史跡巡りで感銘を受けたのは、野生植物の解説を担当なさつた亀井香久乃さん。五十歳代の後半からこの方面に興味を持ち、先生にも恵まれて豊富な知識を身に付けられたという。「チューリップとか菊ぐらいより知らなかつたんですよ」と二十年ほど前をふりかえるご本人。ご参加の諸兄諸姉！今からでも遅くない、どうぞ勉強を。

さてもう一つ皆様にお伝えしたいのが、当日、役場の教育委員会からお仕事として参加した若い男性、小谷龍司さんは東海大文学部出身で、卒論が「石器時代の地層と石器」。なんと考古学の専門家。郷土研にとつては嬉しい援軍の発見となつた。かくいう筆者は、史跡巡り初参加のミィハーおじさん。私にわかるかな：とドキドキしながらの道のり。郷土研の世話役の皆さん、ご苦労様でした。また参加させていただきたく思います。

南足柄方面 見学会に参加して

福田芳江

桜の開化の便りが聞かれる弥生の月末、南足柄方面見学会に参加、お馴染みの八街観光のガイドさんがあたたかい笑顔で迎えて下さいました。バスの窓越しにほころび始めた桜が見え、真白な雪柳や色鮮やかな黄色のレンギョウが咲き私たちの目を楽しませてくれる。最初に大雄山最乗寺へと向かう、福井の永平寺、鶴見の総持寺に継ぐ寺格を誇る寺院とか、鬱蒼たる杉木立の中を進む道路の両側には紫陽花が整然と植えられ、花の季節にはさぞ見事だろうと思われる。バスを降り巨木の間を何度も曲折を経て寺院へ。樹齢三五〇年、五〇〇年を経たという杉の巨木が多く、十七万本にも及ぶ大植林地との事、寄進者の名が刻まれた苔むした石碑を見て明治の時代壱百円とは、今にしたたら、どの位なのだろうなどと話しながら昼なお暗い静寂な参道を登った。すると寺院の伝説に残る天狗が飾られ、天狗の履物(高下駄)は見上げるほど大きく、大小さまざま

会計報告

3/26 南足柄方面	
収入	6,500円×35=227,500円
支出	八街観光 235,925円
	諸雑費 12,390円
	248,315円
不足分(本会計より補充)	20,815円
4/16 山菜を食べる会	
収入	会費 700円×55=38,500円
	町長祝儀等 7,939円
	46,439円
支出	43,401円
残	3,038円
5/18 山形・米沢方面	
収入	25,000円×29=725,000円
支出	京成トラベル 712,195円
	諸雑費 12,000円
残(本会計へ)	805円

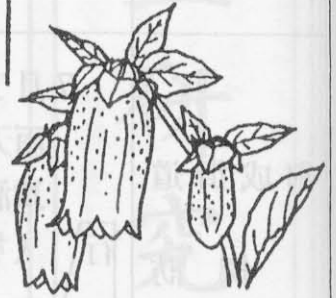
まに並び異様な雰囲気である。現実の喧騒の世界が嘘のような静寂なしまの中での時の流れが停止してしまったような感じがした一時でした。関所跡史料館、石佛群を見、国の重要文化財になっていくという曾我兄弟の墓に詣でる。箱根路はあつと言う間にガスに包まれ先が見えなくなってきた。自然の恐ろしさと言うか不思議さを実感した。安全運転で頑張って下さったドライバーの方に感謝しつつ帰途に着く。

あとがき

木々の緑が濃くなり、田んぼも一面のみどりのじゅうたんを敷きつめたようです。空気が一層おいしい気がします。先日の山形方面見学会では全山萌え立つ見事な新緑に感動しました。四季のある日本に住める幸せを感じます。このすばらしい自然がいつまでも失われないように願わずにはいられません。暑さには向かいますがお友達お誘い合わせて、各種行事にふるってご参加下さい。さて、前号から会報を手書きからワープロに移行しました。長期間、副会長上田悦子さんに本当に暖かい会報を書いていたいただきましたが、都合により移行しました。手書きの会報楽しみにしておられた皆様ごめんなさい。ワープロになっても皆様に楽しく読んでいただけますようにしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

見学

案内



御成街道

探訪 (七)

七月十二日 (月)
雨天代替七月十九日 (月)

金光院・お茶屋御殿跡方面

とにかく真直ぐに造られたという御成街道も、時代の流れや人為的にもすでに自衛隊駐屯地で見えてきたように中断され消えてしまった所がこの先も何か所かあります。

千城台駅(モノレール)より少し歩くとやや昔を取り戻した風景に出会いますが金親町金光院からその先のお茶屋御殿跡に至る間に新道が出てきて『あらららっ』とコースを見まちがえそうになります。
上り下りを繰り返して鹿島川上流(印旛沼にそぐ川)の橋の辺り、中田からバスで帰路につきます。

日帰り見学

八月二十四日 (火) 雨天決行
青梅 方面

残暑厳しい最中ですが、水と緑のふるさと青梅の史跡と奥多摩川の清涼を求めて、ちよつと豪華なお料理を頂くりつち気分な日帰り見学会です。どうぞご参加下さい。

▼旧吉野家住宅 江戸時代、代々名主として栄えた吉野家で、修復保存されている建物。

▼塩船観音寺 真言宗醍醐派。本尊は十一面千手千眼観自在菩薩(都文化財)で、本堂・厨子・山門・阿弥陀堂は国指定の重要文化財の古刹。

▼澤乃井ままごと屋 美酒・澤乃井を生む名水(岩清水)で作られる豆腐・ゆばを中心とした美味なる季節料理を、多摩川のせせらぎと涼風に吹かれ、自然を満喫しながら頂きます。

▼櫛かんざし美術館 江戸から昭和までの櫛とかんざしその他小物など展示されている。

▼金剛寺 真言宗豊山派。本尊は白不動明王。平将門開創といわれ、境内の梅の老木「誓いの梅」は、実が熟しても黄色くならず青いままなので青梅と呼ばれ、青梅の地名の由来といわれる。

▼青梅市立郷土博物館 釜の淵公園の中にあり、青梅の史跡・自然・民具類を展示紹介している。

名勝探訪

九月二十二日 (水)
雨天代替九月二十八日 (火)

中野坂上方面

まだまだ暑い日が続くと思えますが、今回は中野坂上方面へ向かいます。

宝仙寺は、平安時代建築の寺院ですが戦災で焼失、戦後再建されました。境内にはこの地の旧家堀江家の歴代の墓や旧中野町役場跡の碑があります。

成願寺の境内には、中野長者・鈴木九郎の墓・宝篋印塔があります。

中野坂上から新宿に戻り、自由昼食後、小田急デパート前の中からくり時計(カリヨン時計)を見たあと、

東郷青児美術館で目の保養をし、帰宅の途に着きましょう。

郷土研行事案内 平成11年7月～9月

	7 月	8 月	9 月
史談会	3日(土) 13:30 会議室 「千学集と妙見実録千集記」③ 講師：高橋 健一先生	休 講	4日(土) 13:30 会議室 「千学集と妙見実録千集記」④ 講師：高橋 健一先生
御成街道 探訪 (7)	7月12日(月)『金光院・お茶屋御殿跡方面』JR酒々井駅8:10集合 雨天代替7月19日(月) (場合によりコースの変更あり) JR酒々井駅——都賀駅——千城台駅——一里塚 (ちょうちん塚)——長屋門——高札場跡——金光院 ——お茶屋御殿跡——一里塚(椎の古木)—— 千城台駅——都賀駅——JR酒々井駅 (持ち物：弁当、飲み物、雨具、敷物) (弁当等を買う店はありません)		
郷土史講座	8月22日(日) 午後1:30開演 演 題 『印旛沼周辺の民謡について』 講 師 千葉敬愛短期大学非常勤講師 樋口 誠 太 郎 先生 後 援 酒々井町教育委員会 酒々井町文化協会		
日 帰 り 見 学 会	8月24日(火)『青梅方面』 中央公民館7:30出発 会 費 8500円 定 員 45名 19:50着(予定) 申込受付 7月9日(金)9:00～10:00 中央公民館ロビー キャンセル 実施日3日前までに青木朝次宅へ(☎) 酒々井——湾岸・幕張PA——石川PA——吉野家——塩船観音寺— 一澤乃井ままごと屋(昼食)——櫛かんざし美術館——金剛寺— 青梅市立郷土博物館——石川PA——湾岸・幕張PA——酒々井		
名勝探訪	9月22日(水)『中野坂上方面』 京成酒々井駅8:20集合 雨天代替 9月28日(火) (場合によりコースの変更あり) 京成酒々井——八幡——新宿——中野坂上— —宝仙寺——成願寺——中野坂上——新宿— —カリヨン時計——東郷青児美術館——新宿(15:00解散予定) ——八幡——京成酒々井駅		